

府中市地域包括支援センター別ワークショップ実施結果（抜粋）

	目指すべき将来像（地区のあるべき姿）	主要課題	目指すべき将来像の実現に向けての推進事業提案		
泉苑	<ul style="list-style-type: none"> 誰でもいつでも顔を出せる集いの場がある生活しやすい地域 高齢者と障害者全ての年代が安心して暮らせる町 地域住民が活性化している町 気軽に外出できる交通 	<ul style="list-style-type: none"> ひきこもりがちな人でも集う事ができる魅力のある場所がある 多世代の住まい→高齢化率減少 誰もが参加できる自主グループ！高齢になってもいきいきと人の為に働ける場所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ①住民への意識啓発（他者と関わらないという風潮） ②高齢化による地域の弱体化（子供達の介護力、若い人のボランティア・地域活動が育たない） ③担い手の育成・人材不足（高齢者と障害者を支えられる地域住民の育成、運営する人材） 	<ul style="list-style-type: none"> ④場所の確保（誰でも気軽に参加できる集いの場、交通手段の確保） 	<ul style="list-style-type: none"> ①住民の意識啓発 ②PTA・青少隊との交流の機会 ③ボランティア育成のための講座の開催 ④学校・企業の開放（東芝・三井住友研修所・TOYOTA グランド）
よつや苑	<ul style="list-style-type: none"> 笑顔で挨拶できる町 隣近所と挨拶できる町 子供、成人、高齢者の全ての世代の交流が盛んな町 	<ul style="list-style-type: none"> 助け合い「何かできることある？」が合言葉の町 気楽に集まれる場所があちこちにある町 隣近所で関わりが持てる町 井戸端会議があちこちにある町 	<ul style="list-style-type: none"> ①一人暮らし、高齢者世帯の把握（地域の人をどこかで誰かが知っている、救急キットの活用） ②繋がりにくい人が困った時の地域包括支援センター（緊急時以外繋がりを求めない人への支援） 	<ul style="list-style-type: none"> ③地域包括と社協の連携と分担 	<ul style="list-style-type: none"> ①独居・高齢者世帯等の地域住民の詳細の把握 ②繋がりにくい人へのアプローチ ③地域包括と社協の連携と分担
あびの苑	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが自らを愛し、人を愛し、住み続けられる町を作ろう 住民同士が支え合う町 世代間交流が行きかう町 皆が気づき合える町 	<ul style="list-style-type: none"> 居場所の多い町 外出しやすい町 新しい町・古き町が融合する町 	<ul style="list-style-type: none"> ①買い物・移動支援 ・大型スーパーの誘致 ②居場所 ・地域の繋がり、居場所づくりも兼ね、公共施設等を回るコミュニティバスの創設 	<ul style="list-style-type: none"> ③IT化が進む中で、新たな安否確認（ネットワーク）の構築→ネット、LINE ・住民同士の見守り意識の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ①買い物のための多様なニーズの把握 ②世代を超えた居場所づくり、生きがいづくり、学びの場づくり ③ITを活用した安否確認（楽しみも）
安立園	<ul style="list-style-type: none"> 心地良い繋がりに囲まれ、誰でも安心して住み続ける事ができる町～転出ゼロ計画～ 隣近所で挨拶ができる町 包括のいない町＝住民のみで解決できる町（包括は現実対応メイン） 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報に気にならずに良い町 多種多様な人が集う場所のある地域 困った時に頼めるご近所がある町 出掛けたい町→人と会える地域 高齢者が集まって食べられる場所のある町 	<ul style="list-style-type: none"> ①マップ（分かりやすい地図、社会資源マップ） ②人材発掘・活用 ・繋げるのではなく、繋がっちゃう取組がない ・「お互いを知り、協力できる」関係づくり ③世代間の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所の活用 ・オートロックマンション ・個人情報の扱い 	<ul style="list-style-type: none"> ①マップ作成委員会の立ち上げ、トイレ・ベンチマップ作成、集える場マップ ②地域リーダー、人材発掘→教育 ③共食の場作り、役割作り（調理）、孤食防止、食べられない市民
しみずがおか	<ul style="list-style-type: none"> 様々な活動に住民が参加できる（しやすい） 住民が参加できる活動があり、気軽に参加できる 交流の持ちやすい、集まれる場のある町（交通、移動手段を含め） 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢を重ねても住みやすい町 交通機関が充実し、出かけられる 気軽に集まれる場所のある 風通しのよい地域 	<ul style="list-style-type: none"> ①様々な形での交流の場の確保＋立ち上げ ②福祉の普及、啓発（将来、年齢を重ねた時にあるべき姿） ③地域の既存福祉サービスとの地域の繋がりづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ④認サポの普及 ⑤地域課題の掘り起こし 	<ul style="list-style-type: none"> ①世代間の交流の場作り ②福祉の普及、啓発（認サポ） ③地域既存福祉サービスと地域との繋がり作り ④地域課題の掘り起こし
かたまち	<ul style="list-style-type: none"> 「おしゃべりサロン」に歩いて行こう 新旧も、子供も大人も、猫も犬も仲の良い町 住民同士の交流が盛んな住みやすい地域 地区ごとに集まって情報が得られる 生活に便利な情報を共有できる地域にしよう 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統と地元の人が新しい住民を優しく包む町 不便なところは助け合えるような関係（楽しく暮らせる町） 年を取っても住みたい町・皆で住み続けたい町 静かな住宅街にも便利なバスが走る町 	<ul style="list-style-type: none"> ①交流の場が少ない ・参加が可能な集会の情報不足 ・公会堂に補助を ・交流が少ない、場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ②新旧住民の繋がり ・旧＝祭りの繋がり ・新＝組織に入りづらい ・若い人達も参加しやすい仕組み（大学もある） 	<ul style="list-style-type: none"> ①公会堂の開放 ②新・旧住民、多世代が交流できる場をつくる ③重複イベントの整理 ④交通難民の解消
しんまち	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、助け合い、役割、多世代、自主的 皆が挨拶を交わせる町、多世代が笑って挨拶できる町 この町の安全安心はオレがやる→男性のキャリアが活かせる町 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に何でも課題解決に取り組める町 困ってる「SOS」が遠慮なく声が出せる町 「ここで生きて、ここで死ねて良かった」と最期に笑える地域 核家族だけど、ここは新築家族 	<ul style="list-style-type: none"> ①個人意識（お金のこと、体のこと、今後の生活） ②閉じこもり（男性の地域デビューの機会が、家の中にいる高齢者を外へ出すきっかけづくり） ③住民意識（住民同士、近所の繋がりを強化する。） ④多世代（子供やその親世代が参加できる場） 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤場所（集まれる場所＝屋根のあるところではない） ⑥調査（地域のどんな人が、何を課題に感じているのか把握、調査を行うことで初めて見えてくる課題もある） 	<ul style="list-style-type: none"> ①シルバー講座（お金、生きがい、健康等） ②キャリア再活用推進事業 ③団地単位のゴミ出し助け合い ④保育園での高齢者と園児交流事業
緑苑	<ul style="list-style-type: none"> 多世代が 役割持って支え合う 医・食・住・介 揃うこの街 役割（地域住民が主体となっている町、住民それぞれが役割を持ち、協力し合える町） 安心（認知症でも安心して外出できる町、介護が必要になっても安心できる町） 	<ul style="list-style-type: none"> 居場所（用事がなくても、行けば仲間に会える） 支え合い（皆で支え合える町） 多世代（多世代で気軽に集える町づくり） 	<ul style="list-style-type: none"> ①多世代が気軽に行き来（集える）できる場所づくり（高齢者施設と幼稚園の同居、運営、世代間交流の場所づくり、集うための理由をつくる） ②有償、無償で活動・活躍できる仕組みづくり（高齢になっても「できる事」の発掘、地域での役割をつくり出す） 	<ul style="list-style-type: none"> ③メール配信等を活用した皆が使える、見る掲示板作り ④町づくりに予算を増やす（医療、介護業者の誘致、医師会との協力） ⑤多世代交流ができるイベントの実施（運動、趣味、食事） 	<ul style="list-style-type: none"> ①多世代が交流できる場所づくり ②有償、無償で活動・活躍できる仕組みづくり ③メール配信等を活用した皆が使える、見える掲示板作り ④町づくりに予算を増やす ⑤多世代交流ができるイベントの実施
にしん	<ul style="list-style-type: none"> 地域がひとつにまとまる 元気な高齢者が支援を必要とする高齢者を支える 地域住民が情報を周知できる。 近くに活動できる場がある。 在宅での看取りが普通にできる、人生の充実 ボランティア活動に関心が高くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の町の事を大切に感じる。 受け身ではなく、自主的に健康維持に繋がる活動をする人が増える。 地区割りを目指してよく話し合いをする。 「きょういく」（今日、行くところ、やる事がある）の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ①15人乗り程度の小さなバス（ワゴン車）が路地内を走る（小回りのきく交通手段） ②地域ヘルパー事業の立ち上げ（介護保険ではできない内容、市民と市役所の共同事業の立ち上げ、SNS、タブレット、地区ラジオ） 	<ul style="list-style-type: none"> ③人の役に立つ事が楽しいと思える場づくり ・「きょういく」（今日、行くところ、やる事がある）の普及啓発 ・認知症、障害者に優しい町→「福祉に理解がある町づくり」 	<ul style="list-style-type: none"> ①移動手段（バス、車等） ②事業立ち上げ（ミニFM立ち上げ→災害情報、徘徊情報の提供） ③公共、SNS、タブレットの回覧（安否確認、健康管理、買い物、災害情報） ④地域ヘルパー（介護保険ではできない支援） ⑤支え合い、地域貢献
これまや	<ul style="list-style-type: none"> 買い物支援の体制作り→買い物難民のいない町 生活に困らないで移動できる町 いつでも気軽に立ち寄れる場がある町 病気になっても安心な町 災害時に助け合える町 	<ul style="list-style-type: none"> 介護が必要になっても安心して生活できる町 誰もが安心して生活できる町 住民が積極的に地域参加できる町 	<ul style="list-style-type: none"> ①住民への啓発、住民主体の構築、包括と住民の協力体制の充実 ②担い手・ボランティアの養成、活躍の場の設定を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ③地域の現状を行政に発信、空き家・商店街等の活用 ④関係機関および事業等の連携 ⑤介護予防事業への積極的な取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域住民、自発性向上事業 ②生活支援を担いたい人の発掘、育成事業 ③地域を生活しやすくする事業 ④介護予防、健康維持事業 ⑤安全、安心を確保し安定した生活を目指す事業
みなみ町	<ul style="list-style-type: none"> 出会いが生まれる町（人だけでなく、物や機会に自分の足で出会える） 自分達の町のことを自分達で考える町 いつでもどこでも話し合える町 出会いが生まれる町づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 子供から高齢者まで声をかけ合う町 助け合える愛のある町、みなみ町 世代間交流のある町 住民同士が支え合う温かい町「府中」 	<ul style="list-style-type: none"> ①空き家（活用、集う場の確保） ②インフラ（気軽に乗れる、人力車、自転車タクシー、送迎ボラ等） ③住民意識（おせっかいな人、担い手づくり） 	<ul style="list-style-type: none"> ④機会（世代間の支え合い） ⑤場所（集える場所の確保、多様性のある施設） 	<ul style="list-style-type: none"> ①空き家の活用 ②道路と交通機関の問題 ③住民の主体性を育てる ④繋がり合うイベント ⑤場所の確保

